

兄弟姉妹の皆様

私たちのローマのパパ様・フランシスコ教皇様は今回のシノドスにおいて、「第2バチカン公会議を見直し、立ち戻り、生かしてほしい」とメッセージをくださいました。

2022年待降節から、ミサの式次第が新しくなりました。これも、その新しい流れの一つです。

今回はサンパウロ発行 第2バチカン公会議 公文書全集 南山大学監修「第2章 聖体の聖なる秘儀」を解説します。

私たちも、ミサや祈りに主体的に関われるように、一緒に学びましょう。

尚、わかりやすい表現を用いるため、多くの資料を参考にさせていただいておりますことをはじめにお伝えしておきます。

主任司祭 ペトルス・ウィリー・ソバ・ドイ O.C.D.

## 第2章 聖体の聖なる秘儀

### 典礼憲章

②

～第二バチカン公会議公文書より～

**聖書：**神様からの「ことばの食卓」が、信者に対してより一層豊かに与えられるように、聖書の中にある宝「神様からのみことば」をこれまで以上に広く開き、信者に届けなくてはなりません。

そのために、一定の年数を周期として、聖書の中のさまざまに記された大切な部分について、ミサに与る皆に対して朗読されなくてははいけません。

**説教：**説教は典礼の暦による聖書の箇所に基づいて、

- ・「信仰の神秘」（わたしたちを信仰に導く神様の秘められた力）
- ・「キリスト教生活の諸原則」

（わたしたちがカトリック信者として過ごす毎日の在り方）

を説明するものです。

説教は【典礼】そのものの一部として、大いに勧められるべきものです。

そして、主日と守るべき祝日に、わたしたち信者が集い献げるミサでは、特に重大な理由なしに省いてはいけません。

（つづく）